



草のよしだやかから版

2021年 初夏号 VOL.33



初夏の花が咲き誇り、お庭もとても美しい季節です。花に癒されながらの園芸作業は、つい時間が経つのを忘れてしまいますね。「美しい」を保つには、花がら摘みや切り戻しが大切です。病害虫も発生しやすい時期ですので、こまめにお庭を見回り、早めの対処がおススメです。特に混み入っている箇所、普段目が届きづらい場所も見てみてくださいね。紫外線も強くなり体力も奪われるので、ちょこちょこ短めのお手入れで体力を温存し、これからの季節をご一緒に乗り切りましょう。

お手入れの話:



庭木・花木の話



吉田 龍
ガーデニング専門学校
の講師をしています!



●ツツジ類は子房を残さないように花がら摘みを行います。タネを多く付けると栄養がそちらへ向かい、新しい枝葉が伸びにくく、翌年咲きづらくなります。花芽は夏にできるので、剪定をする場合は花後なるべく早めに行ってください。

●楽しませてくれた美しいバラも、咲き終わったら花がら切りをします。次の枝の伸長を促し、風通しもよくなり、病害虫予防になります。お礼肥をあげて次の花を楽しみに待ちたいですね。

●病害虫の話 咲き終わった花がら、枯れ葉、落ち葉は、梅雨になると特に病害虫の温床になりやすいので早めに取り除いてください。ツバキに付くチャドクガは幼虫から脱皮殻まで被害が長いので特に気を付けて下さい。

グランドカバープランツの話



グランドカバープランツは地表を覆うように広がる植物の総称です。常緑多年草等は植替えいらずで、土の露出を減らし雑草対策にもなります。見栄えも良くお手入れが楽な空間を作ること、ストレスを減らしながらお庭を楽しむことが出来ます。弊社ではお庭全体を考慮し、居心地良く過ごすプランのご提案も致しております。